公益社団法人　日本技術士会　登録　科学技術鑑定センターは

中立・公正・公益確保と秘密保持を法律で義務づけられた技術士による、国内有数の鑑定実績を有するプロフェッショナル集団であり、1998年７月に設立以来、最適の技術をもってさまざまな分野においてお客様の科学技術鑑定のニーズにお応えしてきました。

機械事故

機械性能が出ない、部品交換頻度が高い、故障多発などの問題、その原因は設備自体にあるのか、それとも使い方か？当事者間では、なかなか難しい問題です。中立的な私共に是非ご相談をお願いします。

保険査定

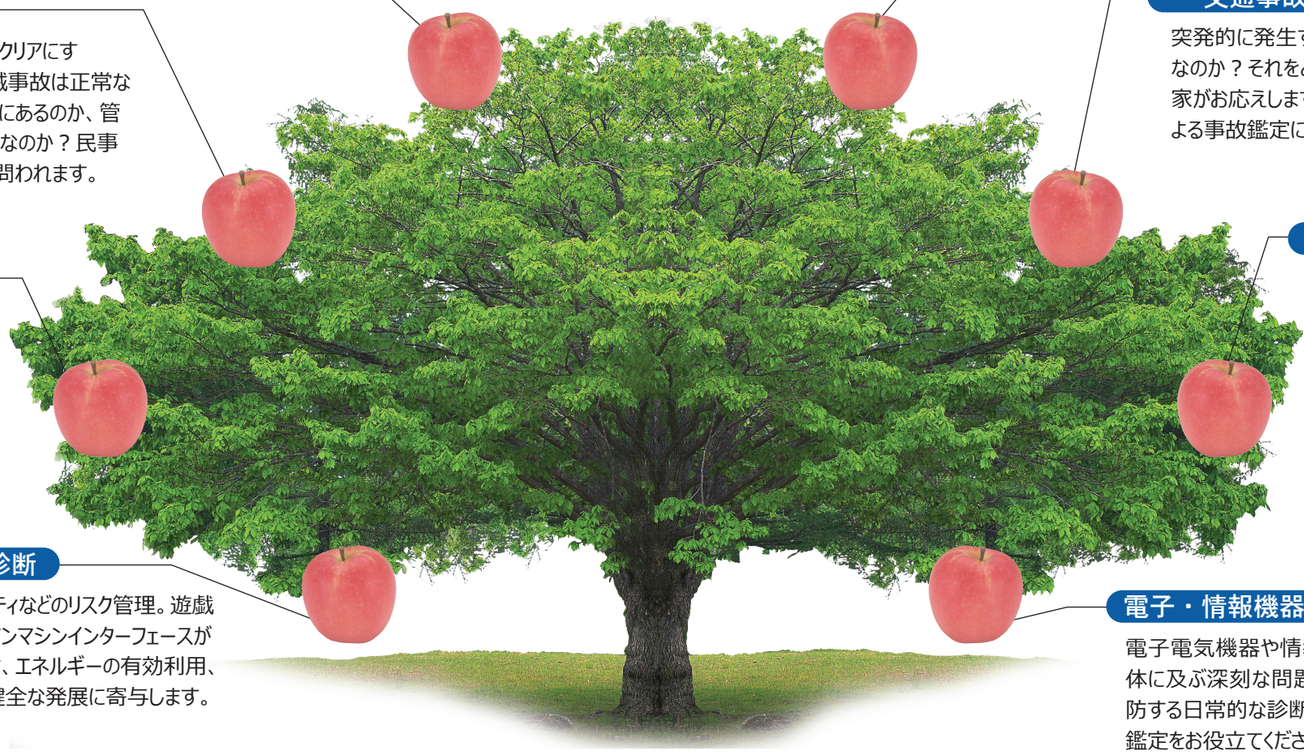
保険の査定に際し、技術的な問題をクリアにすることが不可欠です。果たしてこの機械事故は正常な取り扱いの範囲なのか？責任は設備にあるのか、管理にあるのか？設備は全交換が必要なのか？民事訴訟になると、製造物責任や労災が問われます。

建設関連事故

造成宅地、擁壁、地盤崩壊、道路陥没、建築物事故等の評価。建設機械事故、建設工事中の事故鑑定。地震、台風等自然災害罹災評価。身近な建設関連トラブルの解決に力を尽くします。

設備環境・労働安全環境診断

労働安全、環境対策、情報セキュリティなどのリスク管理。遊戯施設、エレベータ、駐車場設備等のマンマシンインターフェースが問題となる設備の安全性評価。人材、エネルギーの有効利用、生産性向上の評価と推進、企業の健全な発展に寄与します。



火災・雷害事故

火災、爆発やガス中毒、雷被害など、重大災害に発展する可能性が高いものです。例え今回の事故が幸いにして小規模であったとしても、今後の対策のために鑑定をお勧めします。
まして大規模であったら-----。

交通事故

突発的に発生する交通事故、その本当の原因は何なのか？それをどう立証するのか？交通事故の専門家がお応えします。また、車の情報機械、遊具等々による事故鑑定にも対応しております。

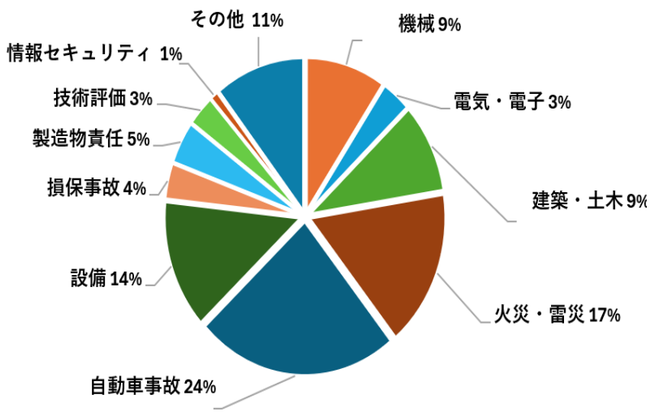
技術評価

技術力は？開発力は？
特許の有効性は？----
投資したい企業の技術力、自社部門の客観的な評価、特許の取得や権利維持の評価、その技術の知りたいポイントを評価致します。

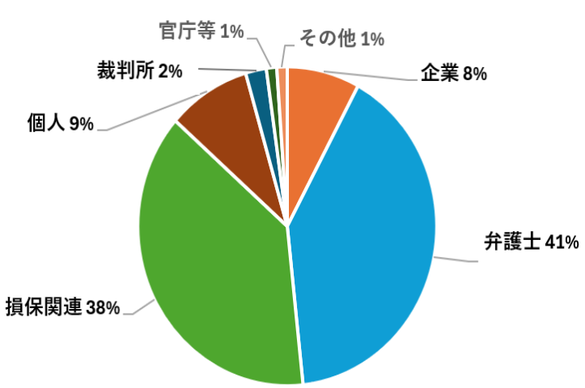
電子・情報機器

電子電気機器や情報機器のトラブルは生産システム全体に及ぶ深刻な問題を起こす要因になります。それを予防する日常的な診断とともに、事故原因の究明や対策に鑑定をお役立てください。

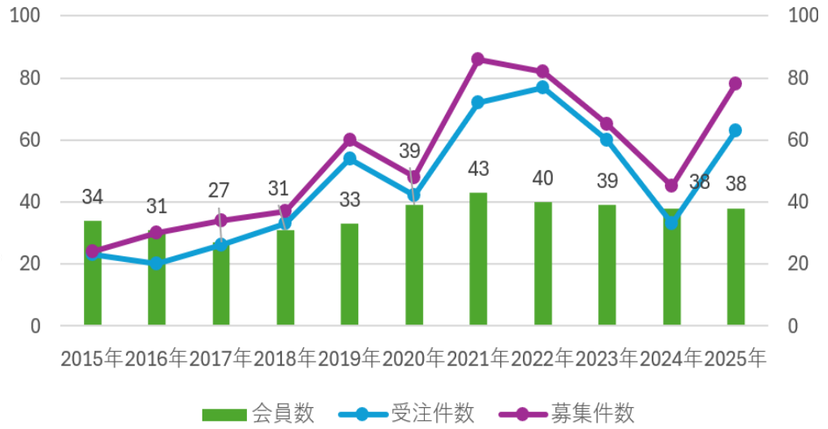
2025年度 分野別受注割合



2025年度 クライアント別受注割合



年度毎募集件数と受注数



鑑定人は

さまざまな科学技術分野の高度な技術応用能力を有する技術士により構成されています。
総勢37名（2026年6月末現在）

技術士は

「技術士」は、産業経済、社会生活の科学技術に関するほぼ全ての分野（次の21の技術部門）をカバーし、先進的な活動から身近な生活にまで関わっています。

- 機械部門
- 船舶・海洋部門
- 航空・宇宙部門
- 電気電子部門
- 化学部門
- 繊維部門
- 金属部門
- 資源工学部門
- 建設部門
- 上下水道部門
- 衛生工学部門
- 農業部門
- 森林部門
- 水産部門
- 経営工学部門
- 情報工学部門
- 応用理学部門
- 生物工学部門
- 環境部門
- 原子力・放射線部門
- 総合技術監理部門